

日露戦役従軍日誌にみる戦闘の様相

新発田駐屯地援護室 佐藤 和敏

【第五回】は、沙河の会戦です。

十月十日晴天、敵は尚優勢にて、我が軍は砲撃す。敵も砲撃す。しかして我が軍は前哨線に二個分隊を置き、残りは後方に下がったり。我が軍の一部をもって応戦、暫時我が砲兵は認知し、一発重砲を発射し、続けて二・三発と連続射撃するや、敵は沈黙したる状況に見ゆるに我が砲兵一個中隊は陣地を進めたり。歩兵・工兵も同じく前進す。情報によれば、第二・第四軍の右翼より前進を開始し、奉天に向って攻撃に移りたる。赴き第一軍方面の敵退却せず。第三大隊の本隊にて、午後六時白嶺子に宿泊す。

同十一日、午後五時同地を前進、第九・第十二中隊と第三十聯隊の第九・第十二中隊は旅団の予備隊なり。本隊は館亭療攻撃の目的をもって、拂曉に彼我の砲門を開き、激戦数時間に渡り、午後一時頃より歩兵射撃したり多いに奮戦、午後一時二十分頃偵察す。我が予備隊は開闊地を駆け足し有り村落に到着。村落に露營す。第三大隊は夜間防御工事を施行し、第三小隊は小哨なり。当時第三十聯隊及び第二・第一大隊は、第一線として誠に損害多大なり。敵の損害遺棄死体、数百を置き退却。畑地には駄馬の死骸多大なり。今日晴天。

十月十二日晴天、午前二時遂に前進を起こし、第十六聯隊の第三大隊は第一線、第一・第二大隊は第二線として右翼に迂回しつつ警戒を厳にし、岩山に向って前進し無事占領す然れども敵兵は鉢巻山・遼東山一帯の線に依り、午前より攻撃を受け地形不利のため位地変更の際、すでに朝日は東天に向って渡りしに、敵は我等の変更を見て非常に発射するため、死傷者六十二名を出し漸く当山を占領。

第十師団の後備は、左翼午前七時五十分頃より各中隊毎に前進。敵はこれを見て発砲雨の如く落下し、烈しくも屈せずして益々勇氣百倍す。前進中砲弾を被り生死するもありて鉢巻山にある敵兵を猛烈に攻撃をなしたるも頑強に頑固をなし、占領することを得ず。夜間に至り夜襲を試みたるも撃退すことなく、尚又続いて夜襲、烈しとも撃退せらるるや。第三十聯隊は、第十六聯隊の苦戦をなしいたるために応助に來りたるも、我等は岩山を占領し僅かなる兵を置き、残部をその付近の部落において露營す。夜間大風雨なり。

十月十三日晴天、第一大隊は第一線として遼東山において苦戦いたし、大隊長以下将校数名及び下士兵卒数多の死傷者を出し、奮戦中予備隊たりし第三大隊前進増加し、益々に勇ましく、敵奉天第一防御線として堅御要地の地て、頑固に抵抗なしありしに、銃中摘す

るを損と、岩石等を投するなど実にこの上なき頑強動作発するに余りあり。

午後五時過ぎ、日はまさに西山に入らんとする時に、敵兵退却を起し北方に敗走するを、追撃を猛烈に加えたるに、敵は援護射撃するも退却せず、露人一つも命中せず。我が軍は眼下にある砲車に向って急射撃をするに、敵は支えるを得ず砲車・弾薬車を遺棄し狼狽して退却に至りて来たる。

砲車弾薬車を引き去りたり遼東山には、敵の死体をもって山の如く、中腹まで地を見るを得ず、充満居るを、我が第九中隊は前哨の任を受け服務せり。

同十四日雨天、払暁、第十六聯隊は師団の予備隊にて第九・十・十一中隊は本隊に加するため前進、第二十九聯隊の指揮を受け攻撃し、右翼を前進、敵は第一高地を敗せられ第二敗し、第三敗し第四の高地と敗走し防御陣地に達することたがわず。味方は追撃致すため、不明村落に敗し、これをめがけて追撃する。実に愉快なり。我が軍の損害いたって少なし。敵の死傷者多大なり。今夜は其の地にありて、第二十九聯隊は前哨、我等は当地において露營す。

以上、沙河の会戦でした。